

タオパネ！ シエラレオネ通信

第6号（2010年2月）

「タオパネ！」とは、現地ティムニ語で「Join Hands!」という意味です。

作成者：藤井 千江美



キャンペーン中に黄熱病予防注射を受けに来た生徒たちの長い行列



世界エイズデーの様子

皆様へ

12月11日から1月7日まで一時帰国し、年末年始は日本で迎えました。今回の帰国時には、日本の離島・地域医療の現状を知りたいと思い、ヨロン島で赤ひげ先生と呼ばれている先生を訪ね、興味深いお話を聞くことができました。読者の方で、ヨロン島に行かれた方もいらっしゃるかと思いますが、独自の文化・伝統・言葉が今でも大切に引継がれている、素朴で人々の暖かさに溢れている島でした。ヨロン島では、独自の

死生観があり、島の方々は、延命治療などせず最期は必ず自宅に戻り、家族に見守られながら亡くなっていくこと、そして土葬が一般的で数年後に掘り起こし、家族で洗骨して骨壺に納めるなど、同じ日本でありながら、その独自の風習にびっくりしました。先生も最初は、延命治療を受けずに自宅に家族と共に戻っていかれる患者さんたちに、かなり戸惑いがあったと伺いました。しかし、その土地の人々が持つ独自の風習・伝統を尊重して地元の方々に医療を提供することが、非常に重要であることを強調されていました。今回の帰国時に通院した歯科医の方も、奈良の過疎地域に定期的に歯科検診に行かれていますのですが、その先生も同じことを話されていました。先生たちのお話を伺い、私が現在携わっているシエラレオネでの保健医療活動と相通じるものがあると思いました。その土地の人々が持つ独自の習慣・伝統を無視しては、現地の人々に対して本当に適切な保健医療は提供できない……、常に忘れてはいけない大切なことだと、あらためて考えさせられる貴重な経験でした。

一時帰国から戻るや、事務所のジェネレーターが2台とも壊れ、電気がなく修理もなかなか進まず……自宅の井戸水に問題がある……など、早速カンビア県ならではの電気と水のトラブルで始まった私の 2010 年……イライラ、カッカの連続ですが、イライラ・カッカしても何も変わらず……ゆっくりと流れる時間……。カンビア県独自のトラブル(?)として、これも習慣・伝統と同じく受容していくことが必要なのかなあ?と思い始めている今日この頃です。(苦笑)

カンビア県に来てもうすぐ2年……、プロジェクト最後の2011年4月末までの延長も決まりました。プロジェクト最後まで全うできるように、体調管理には十分気をつけたいと思います。そして、引き続き、今年も「タオパネ! シエラレオネ通信」を皆様にお送りしたいと思いますので、どうぞ宜しくお願い致します。今回は、スペースの関係上、前回お伝えしました一つ、「子どもたちの学校・生活の様子」を、まずはご紹介させて頂きませぬ。

子どもたちの学校・生活の様子

今回は、コミュニティで協力して運営している学校を2軒、ご紹介させていただきますね。

まずは、フリータウンで宿泊するホテルのすぐ近くにある「フリースクール」。月曜日から土曜日の毎日、15時から18時30分まで、6歳から13歳の子どもたちを、3人の青年がボランティアで教えています。最初は、空き地で、学校に行けない貧しい子どもに教え始めたのが、今では、登録している子どもが72人。この近くに住むモンゴル人の方が、2008年に写真にある教室を建ててくれたそうです。授業を見させてもらおうと、小さな教室にギュウギュウに年齢別に左右に分かれて座る子どもたち。熱気でムムムン。交互に行う感じで、授業は進められていました。



学校の前で皆で一緒に！



授業の様子

もう1軒は、昨年改修工事を行ったマング・ビサン村にあるコミュニティの学校です。

村に学校がなかったので、コミュニティで建て始めましたが、途中でお金がなく現在も屋根が全くない状態です。先生は、読み書きができる村の青年数人が、ボランティアで行っています。完全な青空教室状態ですので、雨期が大変です。



学校の前で皆で一緒に！



授業の様子

学校が終わったら、両親のお手伝いをする子どもたち



オレンジ、ゆで卵を売りに来る少女たち(全員小学校4年生)



ボール、歯磨き粉、カバン、ねずみホイホイなど、いろいろな物を売っているモモ君(小学2年生)

県病院の敷地内にある事務所には、毎日学校が終わった後、子どもたちがいろいろと売りに来ま

す。窓のすぐ横に机がある私に、毎日窓越しに声をかけてくる子どもたち。オレンジ3個で約15円、ゆで卵1個約15円。「あれ、今日のオレンジは小さいね。これも昨日と同じ値段??」って声をかけると、「今日は4個で同じ値段でいいよ!」と。そんな子どもたちと、覚えた片言のティムニ語での毎日の会話は、私を癒してくれるひと時でもあります。

今月の新発見

フリータウンとカンビアの主要幹線道路の工事がようやく本格的に始まりました。カンビアの中心街も、道沿いにあったマーケットが移動し、道がかなり広げられ、穴ぼこだらけだった道も整備されつつあります。道路状況が良くなることで、もちろん多くのメリットもありますが、交通量が多くなったこと、そしてスピードを出して走るバイクに車……、交通事故も増えるのではと心配です。



工事前のカンビア中心街



工事が始まった現在のカンビア中心街

次号の予定

シエラレオネの人々はどんな食事をしているのか……?

そして私は、手に入る野菜の種類が少ないカンビアで、「枝豆」と「プチトマト」の自家栽培も始めました。その様子も併せてご紹介させて頂きたいと思います。